記　　事

◎第 11 回理事会(昭.27.4.7)出席者：大西会長，稲浦副会長，富樫，西松，今岡，本間，米元，高畑，樺島，丸安の各理事，協議事項：(1)会長から米国技術百年祭出席者推薦経過説明，(2)常議員会経過報告，(3)土木賞委員会で授賞決定した論文を報告，(4)総会講演会場を早大に変更の件追認，(5)見学会スケジュール詳細報告，(6)後任理事候補者について協議，(7)名誉員推薦候補者について協議，(8)規則第6条によつて，KK熊谷組，鹿島建設KK，セメント協会を賛助員に推薦することに決定，(9)8月講習会として基礎工及び施工機械をとりあげ丸安理事原案を作製のこと，(10)日本学術会議第 12 回総会には稲浦副会長出席，(11)アジア経済協力会内海清温氏から依頼の南方関係者調査を関係各方面に依頼すること，(12)中部支部長から福井県を関西支部に編入申入れについて関西支部に照会の上了承のこと，(13)会員入退会承認。

◎各種委員会

1. **土木賞委員会** (昭.27.4.3) 各委員からの投票を吉田委員長，大西会長，立花副会長立会の上開票の結果下記の通り決定した。

学会賞

重力ダムの動力学的研究　　工博　畑野　正

地上写真測量の図化方法と地籍測量への利用性

工博　丸安　隆和

奨励賞

急斜面の土壌浸蝕の実験的研究

田中　茂

Mathematical Study of the Motion of Intumescences in Open Channels of Uniform Slope

林　泰造

2. **水理幹事会**(昭.27.4.14)出席者：安芸委員長，本間幹事長，石原委員，

協議事項：各委員から提案の各研究題目を審議し，今後の動向を協議した。なお本間幹事長から JSC 内に水理委員会設置方機械及び船舶方面の動水関係者と連合で申出でたと報告があつた。石原委員から関西に小委員会を設けたいとの希望があり了承。

3. **ハンドブック各部会**を次の通り開催し各主査と執筆委員と打合せを行つた。

土木材料部会(4月2日)　トンネル部会(4月15日)

コンクリート部会(4月17日)

橋梁部会(4月23日)　土質部会(4月28日)

4. **ハンドブック幹事会**(昭.27.4.24)出席者：福田委員長，丸安幹事長，高橋，嶋，柴原(代松村)各幹事，協議事項：各部門の目次案の細目を検討し，なお出揃わない部門を督促し，4月中に目次決定の上各執筆委員に送付することとする。

5. **編集委員会**(昭.27.4.18)出席者：本間委員長，米元副委員長外各委員，協議事項：(1)会誌及び論文集の進捗状況報告，(2)寄稿論文及び新規論文の審査委員の決定，(3)第 37 巻第6号の登載論文を下記の通り決定，

内田一郎：乾燥砂中への水の滲透について，森吉満助：トランシットの外焦式望遠鏡における水平交叉線の調整について，鶴見一之：河川の洪水流量について(続篇)，森田定市：三池炭鉱における人工島工事について，浅村廉：有料道路について，伊丹康夫：ブルドーザー キャリオールの施工歩掛について，

(4)第 37 巻第4号討議依頼先決定，(5)抄録について，(6)次期委員の交代について，(7)寄稿依頼について。

6. **第4回法面崩壊防止委員会**(昭.27.4.22)出席者：最上委員長代理，荻原，多田，福岡の各委員，八十島門田，三木，渡辺，岩塚，市島，大場，伊崎各幹事，協議事項：(1)国鉄側より次の資料につき説明，(a)技研土質研究成果，(b)植物関係，(c)路盤面上圧力計算表，(2)雨量と災害，示方書の作製，植生等について協議。

7. **海外連絡委員会**(昭.27.4.22)出席者：田中委員長，立花，菊地(代富樫)，千秋，石原，本間，平井の各委員及び大西会長，協議事項：米国技術百年祭及び第4回国際橋梁構造工学会議に代表として田中豊博士を JSC に推薦し，了解されたが同氏健康上海外に出席不能との事で後任について種々協議の結果，東大教授福田武雄博士を推薦することに決定した。なお候補として吉田，石原両博士もあつたが吉田博士は一身上の都合で，石原博士は明年米国水理委員会に希望あり辞退された。

8. **応用力学連合講演委員会** (昭.27.4.24) 出席者：造船協会より秋田好雄，田宮真，太田文二，金沢武の各委員及び出淵巽氏，土木学会より岡本舜三，奥村敏恵，久保慶三郎，後藤正司，林泰造，本間仁，最上武雄の各委員，協議事項：委員長互選の結果岡本舜三氏を推し，今秋講演会について協議の結果「お知らせ欄」のような決議をし，学術会議及び関係各学協会に連絡することとした。

9. **製図規格委員会**(昭.27.4.25)出席者：福田委員長，菊池，河野(康)，佐島，高畑，水越，村上(代)，深谷，

樺島(代)の各委員，田村，橋本の各幹事，協議事項：福田委員長提案の総則を逐条審議検討し，コンクリート，発電水力等の原案が出たが次回に検討することとした。

10. サベージ博士文献管理委員会 (昭.27.4.28) 出席者：吉田委員長，高橋，高畑，神谷(代畑野)，細田，佐藤(代伊藤)の各委員，協議事項：(1)文献到着したのでこの内 reprint するものを選定し，これを予約頒布する，(3)製本を要するものは製本すること。

◎その他

1. 関東地区常議員半数改選候補者推薦有志懇談会(昭.27.4.16)で候補者を決定した。

2. 日本工学会では4月24日総会を開催し，26年度会務及び決算報告，監査報告を承認し，27年度予算及び事業計画を審議した。

3. 日本機械学会会長に佐々木重雄氏が就任された。

4. 文部省大学学術局長から絶対電気単位の使用について通知があつた。

5. 村，佐藤，近藤3氏がダム技術研究のため渡米するについて4月11日送別懇談会を学会会議室で開催出席者：前記3氏の外大西会長，稲浦副会長，吉田前会長，目黒，松村，千秋，市浦，高畑，小林，細田，種谷，西松の諸氏，まず大西会長の挨拶に次いで千秋氏から経過説明があり，折角3氏が同一目的で行くのであるから各研究分野を分担して最大の効果を挙げるように希望があり，各経験者から種々の注意や失敗談があつた。

6. 会員の学歴別調査(昭.27.3.30 現在)

	正員	准員	計
大学卒業者	2 063(46%)	1 293(26.5%)	3 356(36%)
高専卒業者	1 366(31%)	2 705(55.5%)	4 071(43.5%)
その他	923(21%)	790(16.0%)	1 713(18.5%)
不明	87(2%)	108(2.0%)	195(2.0%)
計	4 439(100%)	4 896(100%)	9 335(100%)

備考：名誉員，賛助員，特別員を除く

支部だより

◎中部支部　第1回幹事会 (昭.27.4.4.) 出席者：石川支部長，高桑幹事長，小栗，安河内，小村，戸田，渡辺，黒田，鈴木，井上，長坂，和久，増山の各幹事，協議事項：(1)昭和27年度支部役員について，(2)昭和27年度常議員について，(3)昭和27年度予算について，(4)昭和27年度行事について，(5)前支部長に対する記念品について，(6)第1回公開講演会について，(7)新会員の獲得について，(8)役員会の開催について，(9)その他

第1回役員会 (昭.27.4.19) 出席者：石川支部長，立神，田淵，比企野の各顧問，奥田，藤田，鈴木，大林，小林，西村，前田，柴田，松本，鵜飼，竹中の各評議員，高桑鋼一郎，戸田，安河内，小林，鈴木(誠)，井上，鈴木(和)，黒田，和久，長坂，増山の各幹事，松見常議員，協議事項：(1)昭和27年度行事及び予算可決，(2)支部大会を本年秋宇治山田市で開催，(3)福井県で5日役員会開催方提案可決，翌20日中部電力朝日水力建設工事を見学，本工事は岐阜県大野郡朝日村で益田川本流に高さ84mのダムを作り，支流秋神川に69mの貯水池ダムを作りこれをトンネルで連絡し，有効4100万m³の貯水池と77mの落差によつて20500kWの電力を発生し，尙下流の発電所の出力を年間12000余万kWの電力量の増加を計るものである。

第1回公開講演会 (昭.27.4.9. 国鉄名古屋駅講堂) 出席者200名，ニューマチックケーソン工法について白石多士良氏が深淵な学識と豊富な経験とによつて薀蓄を傾け，映画とスライドを交えて詳細に説き多大の感銘を聴衆に与えた。終つて熊谷組提供の圧気工法について両総用水のトンネル掘進の状況，愛知県提供の橋，中部電力提供の電力は国の宝及び佐久間ダム等の映画を見た。

○関西支部　第4回役員会 (昭.27.4.21) 出席者：泉谷支部長，浦上幹事長，島崎，福留，和田，三輪の元支部長，河村，成岡，萱野，森垣の各商議員，協議事項：(1)福井県の所属支部変更について受入方可決，(2)昭和27年度事業計画及び予算を承認，(3)その他報告。

第4回役員会(続) (昭.27.4.30.) 出席者：泉谷支部長，松島，永井，橋本，林元支部長，田中(清)，広岡，森垣，萱野，成岡，田中(茂)商議員，柴橋幹事，中川主事，八島，遠藤，岡部，山本，海淵，清水，福林新商議員，協議事項：次期支部長として武居高四郎君を推薦決定，(2)関西支部水理委員会設置，(3)関西支部学術講演会開催について実行委員によつて要領を決定のこと。

昭和27年5月10日 印刷　土木学会誌　定価 80円
昭和27年5月15日 発行　第37巻 第5号
編集兼発行者　東京都千代田区大手町2丁目4番地　中川一美
印刷者　東京都港区赤坂溜池5番地　大沼正吉
印刷所　東京都港区赤坂溜池5番地　株式会社 技報堂
東京中央局区内千代田区大手町2丁目4番地　電話和田倉(20)3945番
発行所　社団法人 土木学会　振替東京16828番

稲浦鹿藏

立花次郎

福田武雄

昭和27年度土木学会役員氏名

会長		稲浦鹿藏	(留任)	建設省建設技監
副会長		立花次郎	(同)	前日本国有鉄道施設局長
同	工学博士	福田武雄	(新任)	東京大学教授，生産技術研究所
理事		今岡鶴吉	(留任)	日本国有鉄道施設局管理課長
同		榎修仁	(新任)	運輸省民営鉄道部土木課長
同	工学博士	岡本舜三	(同)	東京大学教授，生産技術研究所
同		樺島正二	(留任)	建設省監察官
同		佐島秀夫	(新任)	早稲田大学助教授，理工学部
同		坂本信雄	(再任)	運輸省港湾局建設課長
同		高畑政信	(留任)	公益事業委員会開発課
同		富樫凱一	(同)	建設省道路局建設課長
同		中島重雄	(新任)	大成建設株式会社取締役，土木部長
同	工学博士	本間仁	(留任)	東京大学教授，工学部

土木学会名誉員推挙者報告

工学博士　草　間　　偉君

草間偉氏は明治 39 年東京帝国大学工科大学卒業後直ちに九州鉄道株式会社に入社せられたが同42年同大学助教授に任ぜられ，大正 10 年教授に任ぜられ昭和 17 年停年退官せらるるまで上下水道の権威として子弟の薫育に当られた。

その間土木工学研究のため，大正7年から満2ケ年間欧米留学，同 15 年論文提出により工学博士の学位を得られ，又法政大学工業学校長その他各種の政府委員会の委員を兼ねられた。

退官後多年の功績により勅旨を以つて同大学名誉教授の称号を授けられ，早稲田大学教授，高岡市，前橋市，名古屋市，満鉄，福井市等の上下水道顧問を引受けられ目下長野市，桐生市等の顧問として上下水道事業に活躍せられている。

土木学会にあつては常議員，理事を経て，昭和9年副会長に，同 17 年第 30 代会長に選任せられ，斯界のために尽力せられた功績まことに顕著なものがあるので，ここに土木学会名誉員に推挙致したい。

丹　治　経　三君

丹治経三氏は明治 38 年東京帝国大学工科大学卒業後直ちに九州鉄道株式会社に入社し明治 40 年鉄道の国有後引続き帝国鉄道庁，鉄道省における保線改良工事を担当し，大正 10 年鉄道省工務局保線課長及び改良課長として国鉄施設の保守改良に尽され同 14 年退官せられた。その間大正 11 年より1ケ年間鉄道技術視察のため欧米各国に出張を命ぜられた。

退官後は安田保善社調査部長，秘書部長，庶務部長を歴任し，その間群馬水電監査役，小湊鉄道社長，安田生命保険常務取締役，安田ビルディング取締役，生保証券会長等財界及び事業界に活躍せられ，現在開墾塩業株式会社取締役，安田商工教育会理事，安田学園高等学校長及び同中学校長として子弟の薫育に専念されている。

土木学会にあつては初代主事，名誉員生野団六氏の後をうけて大正 12 年から昭和7年に至る約10年間主事として当学会の発展のために貢献せられ，その功績はまことに顕著なものがあるので，ここに土木学会名誉員に推挙致したい。

就任に当つて

会長　稲　浦　鹿　藏

講和条約発効の歳，独立国家として第一歩を踏み出した真に意義ある時に当つて，図らずも皆様の御推挙によつて，会長の栄職を汚すことになりました。土木技術者として最大の名誉を附与せられた事は誠に感激に堪えないと共に，この時局重大なる秋に際して，その責任の愈々大なることを痛感する次第であります。しかるに誠に浅学菲才，果してこの大任を全うすることが出来るか甚だ危惧の念に耐えないのでありますが，この上は会員各位の絶大なる御指導と御協力によつて，誠心誠意渾身の努力を捧げて，この一ケ年の任期を完遂したいと念願している次第であります。

顧れば戦前，戦後を通じ約十年間，我々の学問技術は全く空白時代であつたと申しても過言でないのでありました。世界の学術進歩から全く取り残された感がいたすのであります。たとえ主権は回復したとは云え，果して国際場裡に伍して，よく独立国家としての実を揚げ得られるか，誠に憂慮に耐えないものがあるのであります。狭隘なる国土に八千数百万の人口を擁して日本民族の幸福と発展を計る唯一の道は，まづ国土の開発によつて自立経済の基礎を確立するのみであります。国家再建の基盤たる国土建設の大業は我々土木技術者の双肩にかかる重大なる任務であることを思う時その責任の重大さを痛感せずには居れません。而もこの重大なる役割を課せられたる我々土木技術者は敗戦後の渾沌たる裡から静かに立ち上つて，一歩一歩健実なる歩みを運びつつある姿を眺めた時，誠に力強い頼しさを感じるのであります。必ず我が土木学会会員諸兄の努力によつて近い将来には世界水準に到達し得る確信を有するものであります。我々は将来高揚せられた学問技術を以て世界各国と比肩し，これと伍して行く誇りを考える時，わが土木学会の使命たるや実に重且つ大なるものがあるのであります。会員各位の御努力によつて，我々の先輩が営々として築き上げた四十年の光輝ある歴史の上に立つて，更に国際的な発展に向つて一路邁進することこそこの際我々に課せられたる重要なる責任と思うのであります。一層の御奮闘御協力を御願い申上げて私の御挨拶といたします。

昭和26年度土木賞受領者報告

土 木 学 会 賞

土木学会誌第 36 巻第 10 号所載

重力ダムの動力学的研究(綜合題目)

正員 工学博士 畑 野 正 君

土木学会誌第 36 巻第 12 号所載

地上写真の図化方法と地籍測量への利用性について

正員 工学博士 丸 安 隆 和 君

土 木 学 会 奨 励 賞

土木学会論文集第 6 号所載

急斜面の土壌浸蝕の実験的研究

正員 工 学 士 田 中 茂 君

土木学会論文集第 11 号所載

Mathematical Study of the Motion of Intumescences in Open Channels of Uniform Slope

正員 工 学 士 林 泰 造 君